

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年11月14日

【四半期会計期間】 第39期第2四半期(自平成28年7月1日 至平成28年9月30日)

【会社名】 日本精密株式会社

【英訳名】 Nihon Seimitsu Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 岡 林 博

【本店の所在の場所】 埼玉県川口市本町四丁目1番8号

【電話番号】 048 - 225 - 5311 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員財務・経理部長 阪 井 明 男

【最寄りの連絡場所】 埼玉県川口市本町四丁目1番8号

【電話番号】 048 - 225 - 5311 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員財務・経理部長 阪 井 明 男

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第38期 第2四半期 連結累計期間	第39期 第2四半期 連結累計期間	第38期
会計期間		自平成27年4月1日 至平成27年9月30日	自平成28年4月1日 至平成28年9月30日	自平成27年4月1日 至平成28年3月31日
売上高	(千円)	4,421,117	4,182,525	9,335,894
経常利益又は経常損失()	(千円)	101,696	399,611	97,059
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 又は親会社株主に帰属する 四半期純損失()	(千円)	62,977	226,649	49,457
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	62,819	233,297	50,625
純資産額	(千円)	2,526,968	2,372,502	2,514,138
総資産額	(千円)	6,426,234	6,803,780	6,950,481
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は四半期純損失金額()	(円)	3.56	12.25	2.75
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	3.56		2.75
自己資本比率	(%)	39.3	34.9	36.1
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	119,991	243,011	103,453
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	358,759	471,621	742,706
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	713,754	119,050	1,328,540
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	864,782	889,124	1,046,670

回次		第38期 第2四半期 連結会計期間	第39期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自平成27年7月1日 至平成27年9月30日	自平成28年7月1日 至平成28年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()	(円)	2.98	7.34

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第39期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（以下、当第2四半期という。）における我が国経済は、米国経済は堅調に推移しているものの、英国のEU離脱に伴う金融市場の混乱、中国や新興国経済の減速懸念などの海外情勢に加え、国内では個人消費は依然として低迷しており、為替相場も徐々に円高が進行するなど先行き不透明な状況が続いております。

このような状況下、当社グループは、平成30年3月期の利益計画「ASEANプロジェクト」の4年目を迎え、「生産能力の増強」「サプライチェーンの構築」「更なる付加価値製品の提供」をテーマに、計画の達成に向けて引き続き取り組んでおります。製造子会社であるNISSEY VIETNAM CO., LTD.においては、6月に完成した表面処理専用の新工場（平成27年9月着工）が8月から本格稼働を開始、これにより生産能力及び生産効率が向上する見込みです。また、更なる生産効率の向上に向けて、半自動化・オートメーション化も引き続き推進しております。同じくNISSEY CAMBODIA CO., LTD.の敷地内では、新工場（NISSEY CAMBODIA METAL CO., LTD.）建設の着工に向けて準備を進めております。これらの取り組みと並行して、その他事業であるウエアラブル関連や健康器具等の新規顧客との取引拡大など、受注促進にも注力してまいりました。一方、円高の影響による売上高の減少に加え、とくに販売単価の下落や消費の節約志向などにより、国内眼鏡市場は厳しい環境が続いております。その結果、当第2四半期の連結売上高は4,182,525千円（前年同四半期は4,421,117千円）となりました。

損益につきましては、売上総利益は、NISSEY VIETNAM CO., LTD.において、円高の影響による製造コストの低減はありましたが、時計関連の取引先の在庫調整などによる受注の減少、半自動化・オートメーション化は推進しているものの一時的な人手不足による残業時間の増加による人件費の増加、そして繰越在庫の減少に加え、円高によるグループ全体の売上の減少などの複数のマイナス要因が重なり716,087千円（前年同四半期は1,088,387千円）となりました。営業損失は、売上総利益の減少により215,171千円（前年同四半期は営業利益152,858千円）となりました。経常損失は、前期末からの急激な円高による外貨預金及び外貨建て債権、在外子会社の円建て債務等の為替評価損の計上などにより399,611千円（前年同四半期は経常利益101,696千円）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失は、製品安定供給準備金200,000千円を特別利益に計上しましたが、個別の黒字決算による法人税等の計上などもあり226,649千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益62,977千円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

時計関連

時計関連の売上高は3,255,505千円となり、前年同四半期比で114,951千円減少しました。このうち、時計バンドの売上高は、海外の取引先などからの高付加価値製品の受注増加により、円高の影響による受注減少をカバーし微増となりました。一方、時計部品の売上高は、円高の影響や取引先の在庫調整等による受注減少などにより、大幅な減少となりました。

これにより、前述した売上総利益の減少もあり、セグメント損失は200,697千円（前年同四半期はセグメント利益261,314千円）となりました。

メガネフレーム

メガネフレームの売上高は590,895千円となり、前年同四半期比で278,617千円減少しました。このうち、(株)村井の売上高は、新規に投入したブランドは好調なものの、海外売上上の減少、また国内の市場環境は一層厳しくなっており、取引先の在庫調整等による受注減少などにより、238,921千円の大幅な減少となりました。また、当社のメガネフレーム部門の売上高は、大型チェーン店や大手メーカーからの受注減少などにより39,696千円の大幅な減少となりました。

しかしながら、(株)村井の利益重視の営業活動の実施、円高による仕入コスト及びロイヤルティの減少、コスト削減などにより赤字幅は縮小し、セグメント損失は107,753千円（前年同四半期は131,549千円）となりました。

その他

その他の売上高は336,123千円となり、前年同四半期比で154,976千円増加しました。釣具用部品は減少、静電気除去器は微増でしたが、新規製品であるウエアラブル関連及び健康器具の売上が著しい増加となりました。

これにより、セグメント利益は82,662千円（前年同四半期は15,873千円）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して、157,546千円減少し889,124千円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は243,011千円（前年同四半期は119,991千円の収入）となりました。減価償却費124,281千円の計上、為替差損143,041千円の計上、売上債権の減少257,529千円などがありました。一方、税金等調整前四半期純損失202,815千円（前年同四半期は税金等調整前四半期純利益101,222千円）の計上、たな卸資産の増加73,284千円などがありました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により支出した資金は471,621千円（前年同四半期は358,759千円の支出）となりました。これは主に定期預金の払戻による収入212,000千円、定期預金の預入による支出333,011千円、有形及び無形固定資産の取得による支出349,321千円などによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により得られた資金は119,050千円（前年同四半期は713,754千円の収入）となりました。これは主に長期借入れによる収入595,000千円、新株予約権の行使による株式の発行による収入93,160千円、短期借入金の純減額250,084千円、長期借入金の返済による支出318,482千円などによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費については、特記すべきものではありません。

(5) 生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、その他の生産実績（前年同四半期比60.4%増）、受注高（前年同四半期比79.5%増）、受注残高（前年同四半期比182.4%増）、販売実績（前年同四半期比85.6%増）がそれぞれ著しく増加しております。

これは、新規製品であるウェアラブル関連及び健康器具の生産、受注及び販売などによるものであります。

(6) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、新たに確定した主要な設備の計画は次のとおりであります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	投資予定金額(千円)		資金調 達方法	着手年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
				総額	既支払額				
NISSEY CAMBODIA CO.,LTD.	カンボジア 第3工場 (カンボジア)	時計関連	製造設備	未定	108,253	契約先から の生産準備 金の受取	平成28年 9月	平成29年 4月	未定

（注）金額には、消費税等は含まれておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	39,000,000
計	39,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	18,768,999	18,768,999	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は1,000株で あります。
計	18,768,999	18,768,999		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成28年9月30日		18,768,999		1,868,253		1,850,191

(6) 【大株主の状況】

平成28年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社ジエンコ (常任代理人 松村正哲)	ソウル特別市松坡区東南路4道41(文井洞) (中央区京橋2丁目12-9 55-1京橋ビル12階 松 村総合法律事務所)	4,119	21.95
キュキャピタルパートナーズ株式会社 (常任代理人 リーディング証券株式会社)	ソウル特別市江南区テヘラン路306,11階(驛 三洞、カイトタワー) (中央区新川1丁目8-8 アクロス新川ビル5階)	1,119	5.96
株式会社SBI証券	港区六本木1丁目6番1号	611	3.26
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券 投資信託口)	中央区晴海1丁目8-12 晴海アイランドトリト ンスクエア オフィスタワーZ棟	465	2.48
日本証券金融株式会社	中央区日本橋茅場町1丁目2番10号	441	2.35
楽天証券株式会社	世田谷区玉川1丁目14番1号	414	2.21
井藤秀雄	吉川市	300	1.60
松井証券株式会社	千代田区麹町1丁目4番地	300	1.60
日本精密社員持株会	川口市本町4丁目1番8号 川口センタービル8 階	251	1.34
CREDIT AGRICOLE (SUISSE) S.A. SINGAPORE BRANCH (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	168 ROBINSON ROAD,23-03CAPITAL TOWER SINGAPORE 068912 (千代田区丸の内2丁目7-1 決済事業部)	249	1.33
計		8,269	44.06

(注) 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口) 465千株

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 208,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 18,554,000	18,554	
単元未満株式	普通株式 6,999		
発行済株式総数	18,768,999		
総株主の議決権		18,554	

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が5,000株含まれておりま
す。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数5個が含まれております。
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式574株が含まれております。

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日本精密株式会社	川口市本町4丁目1-8	208,000		208,000	1.11
計		208,000		208,000	1.11

(注) 単元未満株式の買取請求により、当第2四半期会計期間において231株の自己株式を取得しております。その結
果、平成28年9月30日現在の自己株式数は208,574株となっております。

2 【役員状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、フロンティア監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,355,892	1,319,358
受取手形及び売掛金	1,096,960	834,681
商品及び製品	420,408	536,853
仕掛品	777,437	761,722
原材料及び貯蔵品	318,707	282,863
その他	202,613	221,203
貸倒引当金	40,463	34,093
流動資産合計	4,131,558	3,922,589
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	824,602	1,314,298
機械装置及び運搬具（純額）	682,324	632,919
工具、器具及び備品（純額）	80,722	85,180
土地	123,614	123,614
建設仮勘定	414,359	113,578
有形固定資産合計	2,125,623	2,269,590
無形固定資産		
借地権	410,708	377,134
その他	54,803	44,889
無形固定資産合計	465,512	422,024
投資その他の資産		
投資有価証券	82,323	57,491
敷金及び保証金	35,241	35,207
その他	82,794	79,285
貸倒引当金	13,442	13,442
投資その他の資産合計	186,918	158,542
固定資産合計	2,778,054	2,850,156
繰延資産		
開業費	40,869	31,033
繰延資産合計	40,869	31,033
資産合計	6,950,481	6,803,780

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	767,182	741,701
短期借入金	1,238,450	988,366
1年内返済予定の長期借入金	583,947	650,355
未払法人税等	22,706	30,326
賞与引当金	35,125	36,305
その他	265,325	258,184
流動負債合計	2,912,738	2,705,239
固定負債		
長期借入金	1,396,471	1,595,302
繰延税金負債	12,933	4,651
退職給付に係る負債	114,198	120,084
その他		5,999
固定負債合計	1,523,604	1,726,037
負債合計	4,436,342	4,431,277
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,820,976	1,868,253
資本剰余金	1,804,081	1,851,358
利益剰余金	1,099,959	1,326,609
自己株式	41,314	41,366
株主資本合計	2,483,783	2,351,636
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25,117	10,494
為替換算調整勘定	2,395	10,371
その他の包括利益累計額合計	27,513	20,866
新株予約権	2,841	
純資産合計	2,514,138	2,372,502
負債純資産合計	6,950,481	6,803,780

(2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	4,421,117	4,182,525
売上原価	3,332,730	3,466,437
売上総利益	1,088,387	716,087
販売費及び一般管理費	1,935,528	1,931,258
営業利益又は営業損失()	152,858	215,171
営業外収益		
受取利息	782	198
受取配当金	735	776
受取家賃	2,921	6,257
持分法による投資利益		1,388
貸倒引当金戻入額		6,369
その他	4,332	5,323
営業外収益合計	8,771	20,315
営業外費用		
支払利息	27,462	31,526
為替差損	22,278	156,486
その他	10,191	16,742
営業外費用合計	59,932	204,755
経常利益又は経常損失()	101,696	399,611
特別利益		
固定資産売却益		505
製品安定供給準備金		200,000
新株予約権戻入益		1,447
特別利益合計		201,952
特別損失		
固定資産除却損	474	47
投資有価証券評価損		5,109
特別損失合計	474	5,156
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	101,222	202,815
法人税等	38,244	23,834
四半期純利益又は四半期純損失()	62,977	226,649
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	62,977	226,649
非支配株主に帰属する四半期純利益		
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	398	14,623
為替換算調整勘定	239	7,975
その他の包括利益合計	158	6,647
四半期包括利益	62,819	233,297
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	62,819	233,297
非支配株主に係る四半期包括利益		

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	101,222	202,815
減価償却費	105,098	124,281
貸倒引当金の増減額(は減少)	99	6,369
賞与引当金の増減額(は減少)	447	1,180
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	7,850	5,885
受取利息及び受取配当金	1,517	975
支払利息	27,462	31,526
為替差損益(は益)	9,829	143,041
売上債権の増減額(は増加)	30,450	257,529
たな卸資産の増減額(は増加)	236,175	73,284
仕入債務の増減額(は減少)	188,953	24,119
立替金の増減額(は増加)	22,200	85
その他	13,234	33,047
小計	162,959	288,843
利息及び配当金の受取額	1,517	975
利息の支払額	28,207	31,232
法人税等の支払額	16,278	15,575
営業活動によるキャッシュ・フロー	119,991	243,011
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	47,006	333,011
定期預金の払戻による収入	33,000	212,000
有形及び無形固定資産の取得による支出	342,981	349,321
投資有価証券の取得による支出	1,772	1,793
その他		505
投資活動によるキャッシュ・フロー	358,759	471,621
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	299,184	250,084
長期借入れによる収入	437,834	595,000
長期借入金の返済による支出	236,283	318,482
新株予約権の行使による株式の発行による収入	10,138	93,160
株式の発行による収入	200,020	
新株予約権の発行による収入	2,993	
自己株式の取得による支出	130	51
その他		491
財務活動によるキャッシュ・フロー	713,754	119,050
現金及び現金同等物に係る換算差額	9,575	47,985
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	465,410	157,546
現金及び現金同等物の期首残高	399,371	1,046,670
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 864,782	1 889,124

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(持分法適用の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、重要性が増した関連会社であるモンドティカジャパン株式会社を持分法の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

この変更による当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 受取手形割引高及び電子記録債権割引高

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
受取手形割引高	50,022千円	105,222千円
電子記録債権割引高	102,764 "	46,955 "

2. 当座貸越契約

当社及び連結子会社((株)村井)は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行3行と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
当座貸越極度額の総額	400,000千円	400,000千円
借入実行残高	400,000 "	400,000 "
差引額		

3. 財務制限条項

当社は、設備資金の効率的な調達を行うため、取引銀行1行と実行可能期間付タームローン契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は次の通りであります。なお、借入可能期間は平成26年3月28日で終了しております。タームローン契約に基づく長期借入金(1年以内返済予定の長期借入金を含む。)の当第2四半期連結会計期間末の残高は85,010千円(前連結会計年度末は102,008千円)であります。

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
実行可能期間付 タームローンの総額	170,000千円	170,000千円
借入実行残高	170,000 "	170,000 "
差引額		

上記の実行可能期間付タームローンには、下記の財務制限条項が付されております。

- (1) 借入人は、平成25年3月決算期(当該決算期を含む。)以降の各年度決算期の末日における借入人の連結の貸借対照表において、純資産の部の合計額を、平成24年3月決算期の年度決算期の末日における純資産の部の合計額又は前年度決算期の末日における純資産の部の合計額のいずれか大きい方の80%以上に維持すること。
- (2) 借入人は、平成25年3月決算期(当該決算期を含む。)以降の各年度決算期の末日における借入人の連結の損益計算書において、営業損益の金額を0円以上に維持すること。

前連結会計年度(平成28年3月31日)

借入金のうち、長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む。)20,032千円は、下記の財務制限条項が付されております。

- (1) 借入人は平成24年3月期以降の各年度決算期の末日における借入人の連結の貸借対照表において、純資産の部の合計額を、平成23年3月期の年度決算期の末日における純資産の部の合計額又は前年度決算期の末日における純資産の部の合計額のいずれか大きい方の80%以上に維持すること。
- (2) 借入人は平成24年3月期以降の各年度決算期の末日における借入人の連結の損益計算書において、営業損益の金額を0円以上に維持すること。

当第2四半期連結会計期間(平成28年9月30日)

借入金のうち、長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む。)10,036千円は、下記の財務制限条項が付されております。

- (1) 借入人は平成24年3月期以降の各年度決算期の末日における借入人の連結の貸借対照表において、純資産の部の合計額を、平成23年3月期の年度決算期の末日における純資産の部の合計額又は前年度決算期の末日における純資産の部の合計額のいずれか大きい方の80%以上に維持すること。
- (2) 借入人は平成24年3月期以降の各年度決算期の末日における借入人の連結の損益計算書において、営業損益の金額を0円以上に維持すること。

(四半期連結損益及び包括利益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
役員報酬	69,690千円	74,160千円
給料手当	311,113 "	332,134 "
賞与引当金繰入額	47,987 "	49,752 "
退職給付費用	16,806 "	15,999 "
福利厚生費	56,169 "	60,256 "
支払報酬	50,062 "	44,093 "
支払手数料	28,967 "	20,728 "
支払ロイヤルティ	66,093 "	57,106 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
現金及び預金	1,220,998千円	1,319,358千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	356,215 "	430,234 "
現金及び現金同等物	864,782千円	889,124千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)

株主資本の著しい変動

当社は、第三者割当増資による新株の発行及び第3回新株予約権の行使により、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ105,154千円増加し、この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が1,820,976千円、資本剰余金が1,804,081千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

株主資本の著しい変動

当社は、第3回新株予約権の行使により、当第2四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ47,277千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が1,868,253千円、資本剰余金が1,851,358千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	時計関連	メガネフレーム	その他	合計
売上高				
外部顧客への売上高	3,370,457	869,513	181,147	4,421,117
セグメント間の内部 売上高又は振替高				
計	3,370,457	869,513	181,147	4,421,117
セグメント利益又は損失()	261,314	131,549	15,873	145,638

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	145,638
減損固定資産の減価償却費の調整	2,429
その他の調整額	4,790
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	152,858

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	時計関連	メガネフレーム	その他	合計
売上高				
外部顧客への売上高	3,255,505	590,895	336,123	4,182,525
セグメント間の内部 売上高又は振替高				
計	3,255,505	590,895	336,123	4,182,525
セグメント利益又は損失()	200,697	107,753	82,662	225,787

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	225,787
減損固定資産の減価償却費の調整	2,663
その他の調整額	7,953
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失()	215,171

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()	3円56銭	12円25銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は 親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	62,977	226,649
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 金額又は普通株式に係る親会社株主に帰属する四半 期純損失金額()(千円)	62,977	226,649
普通株式の期中平均株式数(千株)	17,684	18,503
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	3円56銭	
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(千株)	15	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 り四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な変動があったもの の概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、当第2四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年11月9日

日本精密株式会社
取締役会 御中

フロンティア監査法人

指定社員 公認会計士 藤井幸雄 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 本郷大輔 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本精密株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成28年7月1日から平成28年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本精密株式会社及び連結子会社の平成28年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。